「室内環境」10年後への手紙

木村　洋

㈱長谷工コーポレーション　技術研究所
〒343-0822 埼玉県越谷市西方2968

アンジェラ・アキの「手紙」という曲があります。今年のNHK全国学校音楽コンクールで中学校の部の課題曲として，アンジェラ・アキが作詞作曲した歌です。未来の自分へ宛てて書いた手紙をもとに生まれた曲です。今年，中学一年になった我が娘が合唱部に入り，コンクールや演奏会で聴いているうちに，すっかり気にいってしまいました。そして，この歌を聴いて，ふと，室内環境の未来，10年後はどうなっているのだろう，そんなことを考えています。

化学物質による室内空気汚染が社会問題として顕在化し，産官学共同で調査や対策検討に取り組んで10年ほど経過しました。建築基準法も改正され，当時と現在とでは，室内空気環境は大きく変わりました。顕著なのが室内の「におい」でしょう。室内からシンナー臭がなくなり，ホルムアルデヒドによる眼やのどへの刺激もなくなりました。最近では，学会での研究報告も激減し，化学物質による室内空気汚染問題は，一段落したかの様相を呈しています。

しかし，近年，新築住宅で室内濃度測定をすると，ホルムアルデヒドやトルエンなど指針値設定項目の濃度は低いにも関わらず，TVOCは必ずしも減少していません。そして，最近の事例では，大阪大学で新設した研究棟や，小向小学校（紋別市）の新築校舎で，シックハウス問題が発生しています。原因物質は，わかっていないようです。一体，今，何が起こっているのでしょう？　これらの事例は，個人差によるものは少ないようですから，まだまだ，未解決な化学物質による室内空気汚染があるといえます。とは言え，化学物質の種類は膨大でその健康影響もよくわかっていない物質ばかりです。また，TVOCの挙動や実態などについての研究報告も限られています。TVOCの目標値が定められても，達成方法が確立していません。具体的方策や室内空気環境をどう改善していくべきか，今後の方向性が議論されるべきだと思います。

ところで，日本人は，よく極端だといわれます。たとえば「におい」では無臭が最も良くて，「音」に関しては，少しでも隣家の生活音が聞こえるとクレームになったりします。先日，新築入居前の住宅でフローリングの木口にカビを見つけたとか，クロスにカビがあったといって，内装工事をやり直したという話を聞きました。おそらく入居前に時間があいていて，換気が不十分だったのだと思います。カビは室内空気汚染の元祖ですが，この話を聞いて，私はある面でほっと感じたものです。「カビの生えない住宅」，それが断熱と換気によって達成されればすばらしい住宅です。薬漬けの住宅には住みたくはないですね。化学物質に頼らない家づくり，そこに住む人も理解して住むことが不可欠でしょう。

温熱環境はどうでしょう。公立の小中学校でも冷房設備の設置が進みました。抵抗力が弱くなると危惧される意見もありましたが，大学でも冷房設備の設置が進んだおかげで，夏に開催される学会が快適になり，研究発表に集中できるようになりました。温暖化に伴って夏の熱中症も社会問題化してきています。住宅のシェルターとしての役割がより重要になってきています。

さて，10年後の室内環境はどう変わっているでしょう。空気環境については，VOCの問題が解決され，“居室の「におい」がうれしい”，室内環境にしたいですね。不自然な建材臭はなく，突然の来客にも生活臭や体臭（加齢臭？）の気にならない，いい「におい」のする住宅です。

室内環境学会のみなさん，「未来の室内環境」をテーマに手紙を書いてみませんか？